

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第64号

平成30年春発行

発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)

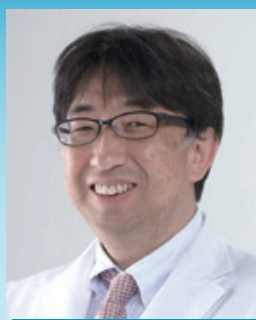
副院長就任のあいさつ

愛知県がんセンター
中央病院 副院長

樋田 豊明

副院長を拝命しました樋田豊明（ひだ とよあき）と申します。1996年に呼吸器内科に着任し、肺がんの診断・治療を中心に診療に従事してまいりました。着任前年に発生しました阪神・淡路大震災当時は、ワシントン郊外の米国立がん研究所で、現在では肺がんの標準治療として確立されてきました精密医療に向けた研究にも携わっていました。米国を中心とした、その後の20年間の肺がん治療に関する進歩は目覚ましく、分子標的薬を用いた精密医療や免疫治療が現実の治療として確立され、愛知県がんセンター呼吸器内科も変革の重要な中核の一つとして活動してきました。これまでは部門の責任者としての役割を中心に仕事をしてきましたが、これからは病院全体の役割を視野に務めさせていただきます。副院長就任に際し、丹羽院長から医療情報システム管理や地域医療連携・相談支援センター、また、個人情報保護や利益相反管理に関して担当するように仰せつかりました。今後も現場の診療を大切にしながら副院長業務に精進する所存です。どうぞ宜しくお願いいたします。

副院長就任のあいさつ

愛知県がんセンター
中央病院 副院長

室 圭

この度、2018年4月より副院長を拝命しました薬物療法部の室圭です。私は1990年東北大学医学部を卒業し、福島県いわき市立総合磐城共立病院で内科初期研修を行い、その後、国立がんセンター東病院（現国立がん研究センター東病院）で約4年間レジデント、国立がんセンター中央病院（現国立がん研究センター中央病院）で約9年間スタッフとして過ごし、2006年愛知県がんセンター中央病院に薬物療法部長として赴任しました。20年超の期間、一環して消化管がんを中心とした薬物療法に専念してまいりました。経歴からおわかりいただけるかと思いますが、ずっとがんセンター畑を渡り歩いております。このたび副院長就任に際して、丹羽康正院長から、①職員教育・研修担当として、②学術・広報担当として、③臨床研究審査委員会委員長としての業務を仰せつかりました。とくに③に関しては本年4月から臨床研究法が施行開始となり、臨床試験・臨床研究環境が大きく変容します。こうした変化に適切かつ迅速に対応して

いくことが求められ、当センターがこの変化に乗り遅れることなく体制整備と強化をしていく重大な責務があると考えております。国立がんセンターでの人脈や今までの経験を活かして、私ども愛知県がんセンターを、診療面でも研究面でも日本一のがん専門施設としてさらに発展させていく一助として尽力したいと心から願っております。臨床現場における日々の診療を怠ることなく務めつつ、副院長業務に精進する所存です。ご指導・ご支援を宜しくお願い致します。

頭頸部外科部長就任のあいさつ



愛知県がんセンター
中央病院 頭頸部外科部長

花井 信広

平成30年4月1日付けで頭頸部外科部長を拝命しました花井信広と申します。平成12年から頭頸部外科レジデント、その後、平成14年から研究所で研鑽を行い、平成19年から再度、頭頸部外科部の医長として愛知県がんセンターで勤務してきました。

頭頸部とは（脳、眼球を除く）首から上の構造、例えば鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、唾液腺、甲状腺などを含みます。一般病院ではあまり見かけない「頭頸部外科」と名乗っていること、まさにそれが当科の特徴で、専門性に特化した診療・治療をおこなっています。愛知県がんセンターは国内屈指の治療実績を誇り、歴代部長には河辺義孝先生、松浦秀博先生、長谷川泰久先生が名を連ね、重責に身が引き締まる思いがいたします。

患者様に最適な治療を提供するために、高度な技術を有する各部門とのチーム医療をより一層発展させていきたいと思っております。皆様のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

早期癌から進行癌まで癌のステージを問わず皆様のお役に立ちたいと考えています。医療機関の先生方におかれましては、診断の有無や進行度にかかわらず、遠慮なく患者様を当院にご紹介くださいますようお願い申し上げます。

集中治療部長就任のあいさつ



愛知県がんセンター
中央病院 集中治療部長

小森 康司

2018年4月から集中治療部長を拝命いたしました小森康司と申します。

私は、2004年7月から当院消化器外科の大腸外科診療科（大腸グループ）に所属し、大腸がんの手術療法を一筋に頑張ってきました。それ以前は、名古屋掖済会病院、名古屋第一赤十字病院と救急医療、集中治療管理にも従事し、その間に日本救急医学会救急科専門医も取得してしまうほど、集中治療管理に情熱を傾けておりました。今回、集中治療部長を務めるにあたり、昔、身に着けた技術を再び活用する場を頂いたことを大変うれしく思っています。

当院の集中治療部は術後の患者さんの集中管理を中心としています。特に手術侵襲の大きい手術、具体的には頭頸部外科、呼吸器外科、消化器外科などです。症例数は少ないですが、病棟で急変した患者さんの全身管理も行っています。

各科医師、看護師、臨床工学技師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、感染防止委員会、呼吸サポートチーム（RST）などを含む多職種のエキスパートと multidisciplinary team（集学的チーム）を作り上げ、コミュニケーションをとりながら患者さんの管理に誠心誠意努力いたす所存でございますので、御指導・御支援を宜しくお願い致します。

「がんゲノム医療連携病院」に当院が選定されました。

がん患者さんの遺伝子（ゲノム）情報に基づき、最適な薬品や治療法を選ぶ「がんゲノム医療」の実施・推進を支える病院である「がんゲノム医療連携病院」に当院が選定されました。

当院はこれまで、がんゲノム医療の実用化に向け、バイオバンクの設置や、個別化医療センター及びリスク評価センターの開設などの取組を進めてきましたが、今回の選定を受け、これまで以上にがんゲノム医療の発展に貢献してまいります。

循環器科部長就任のあいさつ



愛知県がんセンター
中央病院 循環器科部長
山本 充

平成30年4月より循環器科部長として着任しました山本充です。当病院に長年にわたり勤務されてきた波多野潔先生がご退職され、その後を引き継いで診療を任されることになりました。前任の波多野先生は1名体制で診療をこなしてこられました。残念ながら今後もこの体制が続いて行くこととなります。したがって、心臓や血管に大きな病気を抱えていたり、または受診・入院中に急な発病をされた方々には、速やかに近隣の専門機関へご紹介させていただきます。

がんセンターにおける循環器科の役割は、がん治療にあたる各科をサポートしてゆくことです。近年では高齢化および食生活の変化に伴い、心血管疾患をもった患者さんの割合は増加しています。そのためがん治療の前後で心臓の状態や危険性について評価することは、安全な治療を進めるためには重要なこととなります。またがんの治療中には、心血管障害、薬剤性心筋症、不整脈や血栓症などの疾患を合併することも想定されます。診療に際しては丁寧な診察をこころがけ、必要な検査や治療を併せて行っていくことで、少しでも皆様が安心してがん治療を進めることができるよう努めて参りたいと思います。最後になりましたが、みなさまからの温かいご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

リスク評価センター長就任のあいさつ



愛知県がんセンター
中央病院
リスク評価センター長
井本 逸勢

平成30年4月1日付けで、新設のリスク評価センターのセンター長として着任いたしました井本逸勢です。

私は、昭和62年に京都府立医科大学を卒業し、同大学附属病院において消化器内科医としてスタートを切った後、米国留学を契機に、東京医科歯科大学、徳島大学で、主にがんを中心とする病気に関わる遺伝子の変化について研究してきました。一方で、臨床遺伝専門医・指導医として、大学病院で、病気や体質の遺伝について悩んでいる患者さんやそのご家族の遺伝カウンセリングを行ってきました。

がんの5-10%は、生まれつき体の全ての細胞に備わった遺伝子の変化によって様々な臓器にがんができやすくなる体質をもとに生じます。乳腺や大腸などは、特に遺伝性のがんの方が多い臓器です。リスク評価センターは、遺伝カウンセリングを通じて、そのような方の治療方針やまだがんになっていない臓器の予防法の決定、さらにはお子さんやきょうだいなど同じ遺伝子の変化を持つ可能性がある方々の予防などに対応します。がんに「遺伝」と付くと、なにかしら怖いイメージがありますが、きちんと自身のリスクを理解したうえでがんに立ち向かえることでプラスな面もあります。常に最新の遺伝医療を提供することで、みなさまが病気の悩みや不安に立ち向かえるよう、各診療科と連携して努力してまいります。どなたでも、がんの遺伝について心配なことがあれば、お気軽にご相談ください。

日本対がん協会 垣添会長 がん患者支援のため来院！

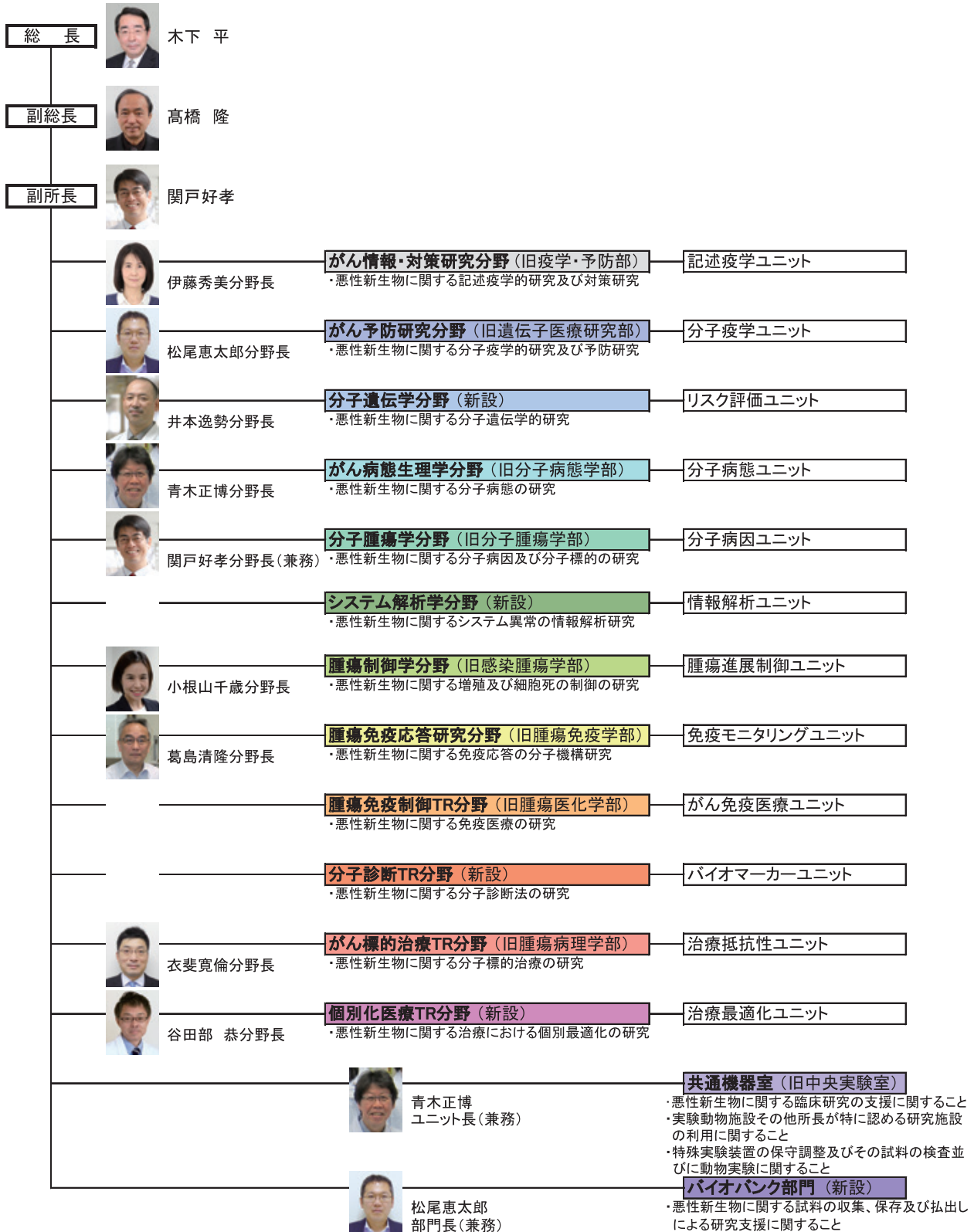
全国を歩いてがん経験者への支援を呼びかける「全国縦断がんサバイバー支援ウォーク」を行っている、日本対がん協会の垣添忠生会長が3月6日（火）に当院を訪れ、木下がんセンター総長及び丹羽病院長と、がんサバイバーの支援について意見交換を行いました。

当院としても、引き続き、がんサバイバーの方の生活や就労、心のケアなどの支援に積極的に取り組んでまいります。



愛知県がんセンター研究所の組織改編

平成30年4月1日より、愛知県がんセンター研究所の組織改編を実施し、従来の8部門（疫学・予防部、腫瘍病理学部、分子腫瘍学部、遺伝子医療研究部、腫瘍免疫学部、感染腫瘍学部、分子病態学部、腫瘍医化学部）及び中央実験室から12分野、共通機器室及びバイオバンク部門といたしました。「部」は「分野」に、「室」は「ユニット」に変更されました。



*「TR:トランスレーショナルリサーチ」

米国FDA（米国食品医薬品局）による査察及び臨床研究法について 中央病院 ～ 臨床試験部 ～

臨床試験部は、当院における臨床研究を支援する部門です。

当院では、数多くの抗がん剤の治験を受託しており（約140件／年）、最近では多くの国際共同治験に参加しています。

平成29年8月に、当院が参加した国際共同治験でのデータ信頼性の確認を目的として、米国FDA（米国食品医薬品局、日本でいう厚生労働省）がGCP（医薬品の臨床試験の実施基準）に基づいて査察を実施しました。FDAの日本への査察は件数が少なく、当院でも初めてとなりましたが、皆の協力のもと無事査察を終了することができました。

この度、FDA査察への対応が評価され、本治験担当の医薬品開発受託会社より治験支援室のCRC 2名並びに事務局が表彰を受けました。その後、FDAから適正な治験実施と認められるとの報告を受け、私たちの大きな自信となりました。



一方、平成30年4月より、国内において臨床研究法が施行されました。治験以外で、企業等から資金提供を受けたり、未承認・適応外の医薬品・医療機器を用いる臨床研究（特定臨床研究）が規制の対象となります。当院は、平成30年3月に臨床研究審査委員会の認定を取得しました。現在、臨床試験室および試験支援室は、当院での特定臨床研究の実施を目指し、体制整備中です。

今後も、臨床試験部は、当院におけるより円滑な臨床研究の実施を目指して、支援体制を整備して参ります。ご協力よろしくお願い申し上げます。

手術室増室工事が完了しました 中央病院 ～手術部～



手術部長

伊藤 誠二

愛知県がんセンター中央病院では、平成4年の現病院竣工以来、9室の手術室で、数多くの手術に対応して参りました。当院の手術件数は年々増加してきており、また、近年の低侵襲手術の導入に伴って、1手術あたりの手術時間はむしろ延長する傾向にあり、手術室の不足が目立ってきておりました。昨年度、一部業務の外部委託に伴って空きスペースとなった洗浄仕分け室のスペースを用いて、手術室を増室する工事を行い、4月から稼働となりました。今後の鏡視下手術、ロボット支援下手術の増加、手術関連機器の高度化を念頭に置き、広めのスペースを取るとともに、これまで通り、清潔機材の供給ルートと使用後機材の回収ルートに分ける作りとなっています。日常の診療、手術を行いながらの増設工事となりましたので、手術患者さん、病棟患者さんには若干のご不便をおかけしましたが、工事開始前よりワーキンググループを編成し、工事関係者の方々のご協力も得ながら、工法等に工夫を凝らし、安全に、手術件数を減らすことなく、工事を行うことができました。各方面のご尽力に、深く感謝を申し上げます。今回の手術室増室により、手術件数の増加、手術待機期間の短縮が期待されます。今後も、安全な手術を通じて、ますます県民の皆様、各医療機関の皆様の期待に添えるよう努力して参ります。



完成した手術室のようす

新任医師
の
紹介



消化器内科部
松本 慎平



血液・細胞療法部
柳田 正光



薬物療法部
舛石 俊樹



遺伝子病理診断部
細田 和貴



形成外科部
丸山 陽子



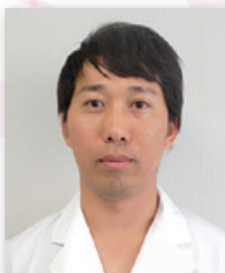
形成外科部
中村 亮太



整形外科部
濱田 俊介



整形外科部
藤原 那沙



麻酔科部
水谷 吉宏



放射線診断・IVR部
女屋 博昭



医療安全管理部
本多 和典

第8回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました

3月3日（土）、メルパルク名古屋において、近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、第8回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました。159人もの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。

当院診療部門からの話題提供に加え、がんゲノム医療についての特別講演があり、活発な意見交換も行われ、大変有意義な会となりました。

次回の第9回は、7月21日（土）17時からメルパルク名古屋にて開催予定です。



とうろく医探訪

Produced by
地域医療連携・相談支援センター
No.7

医療法人格生会 堀内クリニック 院長：堀内 格先生



日頃はがんセンターの先生方、スタッフに皆さまには大変お世話になっております。

当院は自由ヶ丘2丁目の交差点の角にあり、がんセンターにもっとも距離の近い診療所の一つです。昭和32年に父が当地で診療所を始め診療していましたが、平成4年に体調を崩し閉院いたしました。一時閉鎖していましたが平成7年に現在の建物に建て替えて新規開業し今年で23年になります。

私は勤務医時代には消化器外科、小児外科を専門にしており、昭和60年には週1回半年ほどがんセンター消化器内科に通い上部内視鏡の研修をさせていただきました。

近くにありながら開業当初は、がんセンターはがん専門病院ということで敷居が高く感じられ、患者さんの紹介を緊張しながら行った覚えがありますが、丁寧に対応していただき感謝しております。今までに多くはありませんが胃癌、大腸癌をはじめ肺癌、乳癌、甲状腺癌、前立腺癌等さまざまな分野でお世話になっております。

近年は予約システムが充実し以前よりもさらにスムーズに紹介が可能になりありがたいです。特に大腸内視鏡検査の直接予約のシステムは大変便利で、しかも検査日までの待ち日が比較的少なく予約がとれ、患者さんにも大変好評です。これからもよろしくお願ひ申し上げます。



【医療機関情報】

医療法人格生会

堀内クリニック

診療科目／内科、消化器内科、外科、

小児外科、肛門外科

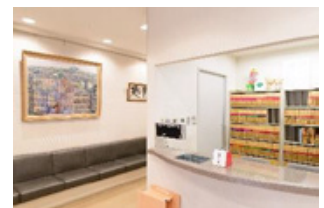
電話／052-762-0687

所在地／〒464-0031

愛知県名古屋市千種区徳川山町5-1-1



★自由ヶ丘2丁目の交差点の角です。



URL／www.nagoya.aichi.med.or.jp/chikusaku/7620687/

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	○	○	○	○	○	○	/
午後	4:30-7:30	○	○	/	○	○	/	/

編集後記：第7回は千種区の堀内クリニック、堀内先生です。モダンな外観が目を引き、中に入ると落ち着いた雰囲気の待合室と、先生の穏やかで真剣な眼差しが印象的です。ご紹介や乳がん地域連携パスでもお世話になっております。これからもよろしくお願ひいたします。 <Y.SANO>

がん登録資料を用いたがんの記述疫学研究 研究所 ～がん情報・対策研究分野～



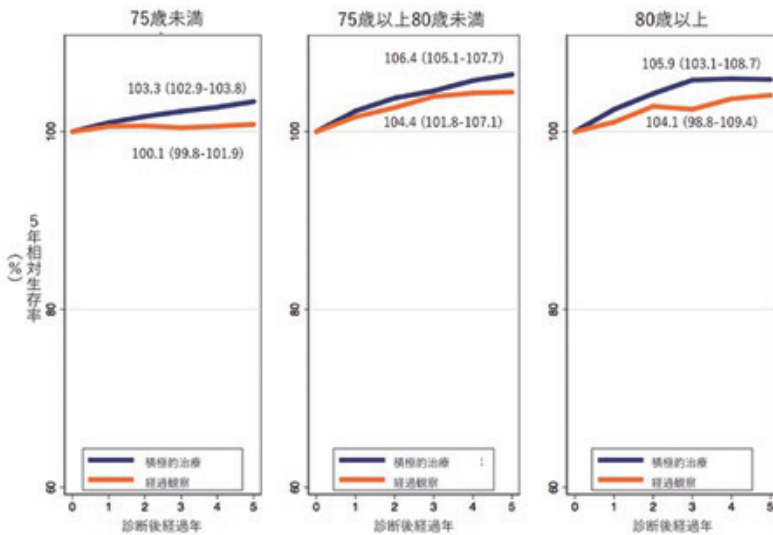
がん情報・対策研究分野長
伊藤 秀美

がん情報・対策研究分野では、愛知県内のがん患者さんの情報を収集する愛知県がん登録に深く関わり、県内のがんの罹患率や死亡率の動向や、生存率の地域格差の分析に取り組んでいます。

私達のグループは、愛知県をはじめとする21都道府県がん登録に登録されている前立腺がん患者さん48,782人の情報を解析し、がんが前立腺にとどまっている限局前立腺がん患者さんは、治療してもしなくても5年相対生存率が100%で大差がないことを見いだしました(図)。余命が5年以上ある80才未満の方については長期に観察する必要はありませんが、少なくとも80歳以上の限局(早期)前立腺がんの患者さんは治療してもしなくても

も生命予後は変わらないため、高齢者の早期の前立腺がん患者さんに対して治療せず経過観察するという選択は、医療費の削減や治療による副作用の低減につながり、妥当であるということを示しています。この研究成果は、学術誌Cancer Scienceに掲載されています。

このように、私達は、愛知県や日本のみならず、世界のがん登録のデータを活用した記述疫学研究に取り組み、がん医療や対策に役立つ情報を発信しています。



治療の有無による限局前立腺がん患者の5年相対生存率(相対生存率が100%以上の場合、一般集団と同じ生存率を示し、前立腺がんに関連する過剰な死亡がないことを意味する)

～ 研究所 バイオバンク スタッフの紹介 ～

「バイオバンク」、聞き慣れない方も多いと思いますが、患者さんからご提供いただいた血液や組織を、治療や検査の記録と合わせて保管・管理し、医学の研究に活用する仕組みのことです。バイオバンクではスタッフ一丸となり、がんの予防・診断・治療にわたる多くの研究開発を支えられるよう、日々の業務に取り組んでおります。患者さんのご協力が未来のより良い医療につながるように、バイオバンクは努めてまいります。



写真：前列左から、伊藤智子(技師)、伊藤秀美(分野長)、松尾恵太郎(部門長)、中田舞(技師)、後列左から、村松さゆき(事務)、篠原佳美(技師)、吉田有佑(技師)、坂本里美(事務)

外来内視鏡予約システムの利用状況

中央病院 ～内視鏡部～



内視鏡部長

田近 正洋

内視鏡部では、平成28年6月から外部医療機関からの内視鏡検査の予約システムを開始しました。これまでに70を超える医療機関からご利用頂きました。ありがとうございました。今回、平成29年7月までに紹介頂いた228名の方々のデータをまとめ、12月に開催された日本消化器がん検診学会で報告しました。紹介理由は、検診異常の方が119名（52%）と半数を占め、続いて腹痛などの有症状、経過観察目的でした。検診異常のうち胃がん検診20名中1名（5%）、大腸がん検診99名中6名（6%）でがんが発見され、うち5名は外科手術が必要な病変で、当院で手術を行いました。また、治療を要する大腸ポリープは25例（25%）ありました。予約日から検査日までの平均待機日数は胃で7.2日、大腸で11.2日と希望通りの予約が可能でした。

一次検診で異常を指摘され、二次検診を受診する精検受診率は胃がん77.7%、大腸がん69.4%（平成27年度愛知県）と目標値の90%に届いていません。胃がん、大腸がんは早期に発見すれば治るがんです。そのためにも検診で異常を指摘された方は、必ずお近くの医療機関で二次検診を受けましょう。当院でも二次検診は可能です。お急ぎの方がみえましたら是非ご利用ください。

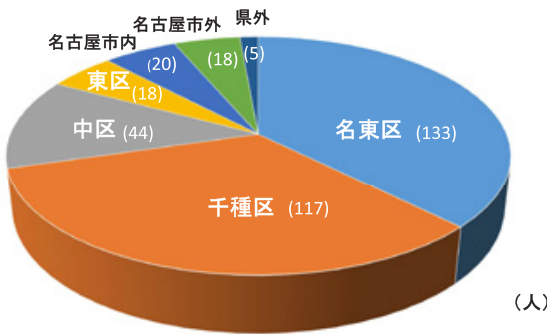


図1：紹介元医療機関の内訳

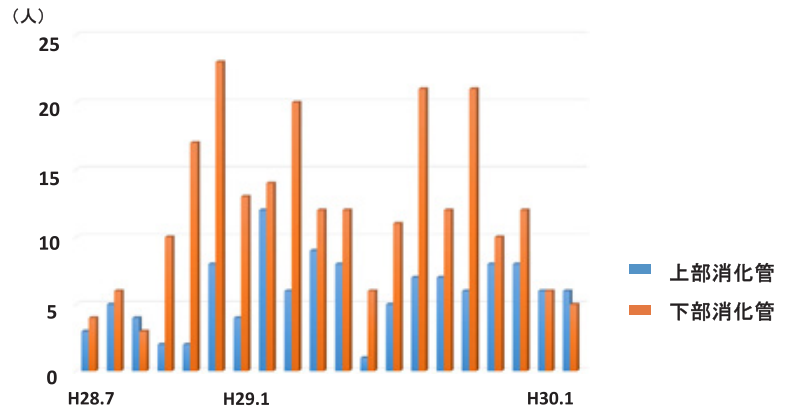


図2：外来内視鏡予約システムの利用状況の推移

～ 中央病院 呼吸器外科部 スタッフの紹介 ～

愛知県がんセンター中央病院・呼吸器外科部は5名のスタッフと4名のレジデントで診療しております。主に肺がんや縦隔腫瘍（胸の中のできもの一般）が対象です。進行がんに対しては内科・放射線治療科と協力し集学的治療を、早期がんに対しては積極的に低侵襲手術（胸腔鏡手術や区域切除など）を行っております。特に胸腔鏡手術に関しては肺がんの標準的な手術として重点的にレベルアップを図り、そのためのスタッフも増員致しました。皆で力を合わせて、患者さんに安心・安全な医療を提供してまいりますと存じます。どうぞ、宜しく願い致します。



写真：左上 坂倉範昭（医長）、中央 坂尾幸則（部長）、
 右上 黒田浩章（医長）、左下 水野鉄也（医長）、
 右下 有村隆明（医長）

ISO 15189認定取得について

中央病院 ～臨床検査部～

臨床検査は病気の診断、治療や検診目的で行われる検査の一つです。患者さんから採取された血液、尿や組織などを分析・解析し、その結果を臨床の医師に報告します。信頼できる検査結果を得るためには、この検体採取から結果報告までの過程における操作の精度と正確性が重要です。この臨床検査の質と能力を客観的に評価するひとつの基準として「ISO 15189（臨床検査室－品質と能力に関する特定要求事項）」があり、国内での取得施設が増えています。

ISO 15189では検査室内の組織を構築し、日常の作業の曖昧な点を明確化し、文章化して業務の標準化を行います。この作業を通じて記録を残し追跡可能性や説明責任を果たすことが求められます（写真1）。これらの要求基準を満たすことで、さまざまな改善を生み、結果としてリスクの軽減とコストの低減に繋がるとされています。当臨床検査室では平成28年年末から認定取得に取り組み始め、1年3か月をかけて準備してきました。その結果、本年3月16日に認定承認を受けました（写真2）。

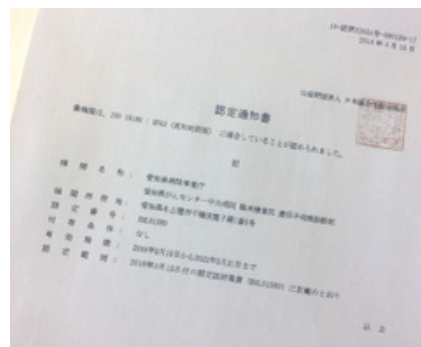
今後も、「ISO 15189」の要求事項を遵守し、がん専門医療施設の臨床検査を担う部門としてさらに質の向上に努めてまいります。



多くの標準作業手順書による操作および正確なデータ管理による検査（写真1）



臨床検査部および輸血部スタッフ
前列左より3人目が谷田部臨床検査部長



努力を報いる認定通知書（写真2）

～ 中央病院 リハビリテーション部 スタッフの紹介 ～

平成27年度までは理学療法士が1名でしたが、平成28年度からは理学療法士が2名増員、平成29年度からは作業療法士と言語聴覚士が1名ずつ増員となりました。そして平成30年度からは理学療法士がさらに2名増員となり、理療士は全部で7名になりました。最初は、回復的や維持的なりハビリに限られていましたが、最近は予防的、緩和的なりハビリも充実してきました。今後も、がん患者さんの身体的、心理的な問題に少しでもお役にたてるよう努力していきます。



写真：前列左から、伊藤敬太（理学療法士）、吉田雅博（部長）、前田明弘（理学療法士）
後ろ左から、山崎康司（理学療法士）、高津 淳（言語聴覚士）、南島翔太（作業療法士）、中嶋誠也（理学療法士）

♪ ボランティアコンサート開催 ♪

2月21日(水)に、愛知県立芸術大学の学生6名による、ボランティアコンサートが国際医学交流センターメインホールで開催されました。坂本九の上を向いて歩こう、R.シューマンの幻想小品集より「夜に」等の曲を演奏して頂きました。多くの方にご鑑賞いただき、素敵な演奏会となりました。



医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科(サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科(精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)
※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)
※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索